

紀州・道成寺の住職（ワキ）が

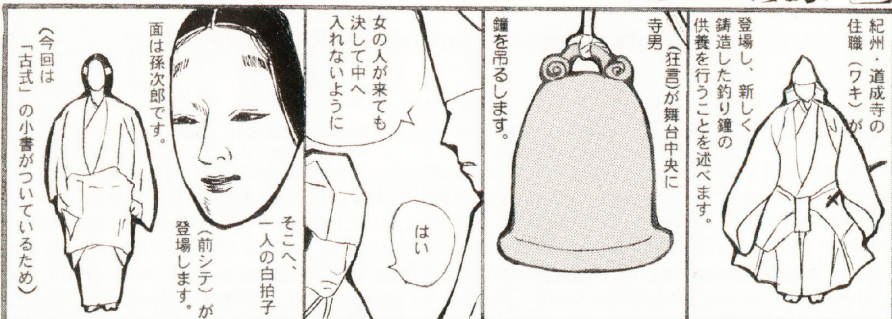
登場し、新しく鑄造した釣り鐘の供養を行うことを述べます。  
（狂言）が舞台中央に寺男

女の人に来てても決して中へ入れないように

はい

そこへ、一人の白拍子（前シテ）が登場します。

（今回は「古式」の小書がついているため）



女人は入れません  
舞を奉納するので入れてください

寺男（アヒ）に入れてもらった白拍子は烏帽子をつけ、舞を舞います。

「乱拍子」の部分は、小振とシテとの掛け合いで、「道成寺」曲中でも特に緊迫した場面です。

ああ鐘が恨めしい！

そう言うと、突然白拍子は鐘へ走り寄って、竜頭に手をかけ

鐘の中へ飛び込み、それと同時に鐘が落ちます。



住職は、女をスマセテ入れてしまった寺男を叱り、女を入れてはいけない理由を従僧に語ります。

昔、真砂の庄司は自分の娘に魅れて毎年家に招泊する僧が娘の結婚相手だといいました

父の言葉  
を信じた娘が僧に結婚を迫ると  
驚いた僧は  
逃げ出します

娘は追いかけましたがかげました

日高川が準水して裏切られたと思い、怒り狂った娘はその身を蛇に変え、僧が逃げ込んだ道成寺の鐘に七重に巻きつき、ついに僧を焼き殺してしまいました。

渡るものができません



娘の執念を払うため僧たちは熱く煮えたぎった鐘に向かつて祈禱をはじめます。

法の力です

鐘の中から蛇体と化した女（後シテ）が現れます。

鬼女は僧たちに襲いかかりますが、祈り伏せられついに日高川へ飛び込んで消え失せます。

